



独立行政法人
国立国際医療研究センター

糖尿病情報センター

EMA 報道発表の訳 (2011/10/21 改訂版)

欧州医薬品庁(CHMP)は、欧州委員会 (EC) の要請に対し、ピオグリタゾンを含む経口糖尿病薬と膀胱癌の発症リスクについての見解を述べます。以前発表した見解を踏襲しますが、今回糖尿病の方および医療関係者にはっきり分かり易い表現を心がけました。

「他の治療 (メトホルミン) の使用が適切でない時やよく効かない時に、ピオグリタゾンは、一部の2型糖尿病の方にとって有効な治療の選択肢である。」

2011年7月に推奨した新しい警告および禁忌項目には変更はありません。

2011年7月にCHMPはピオグリタゾンと膀胱癌の発症リスクについての精査を行いました。この薬剤を内服している人には少し膀胱癌リスクが増加します。しかし、他の治療法では適切に治療がなされない方が一部おられることに配慮し、「ピオグリタゾンは治療の選択肢として残すべきですが、これを処方する者は、注意深くこの薬剤を使う対象者を選び、効果をモニターするべきである。」との結論にいたりました。「他の治療 (メトホルミン) の使用が適切でない時やよく効かない時に、ピオグリタゾンは、一部の2型糖尿病の方にとって有効な治療の選択肢である。」という今回の修正案は糖尿病の方および医療関係者にとって分かり易いものとなりました。

今回の修正案はECに答申し、裁定を委ねることになります。

備考

- 1.このプレスリリース、およびこれに関連する文書はEMAのホームページから閲覧可能です。
2. 2011年7月の取り纏めについての情報は、EMAのホームページから閲覧可能です。
- 3.このプレスリリースは2011年10月21日付けプレスリリースの修正版です。
- 4.EMAの発信する情報、EMAの業務についてはEMAホームページを参照ください。

www.ema.europa.eu